



がん患者や、その家族のために支援情報を提供するイベント

# ジャパン キャンサー サバイバーズ デイ 2023

JAPAN CANCER SURVIVORS DAY 2023

つながり支え合う



## 開催報告

2023年8月17日発行

主催：公益財団法人 日本対がん協会

# はじめに

2023年6月4日(日)、日本対がん協会の主催で、がん患者・家族が必要な支援を受けられるように情報を提供するイベント「ジャパンキャンサーサバイバーズデイ(JCSD)2023」を、国立がん研究センター 築地キャンパス 研究棟(東京都中央区)にて開催致しました。ご参加頂いた皆様、ご出展頂いた皆様、ご登壇頂いた皆様、ボランティアの皆様、会場を提供して下さった国立がん研究センター様、そのほか開催に携わって下さった全ての方に心より感謝の御礼申し上げます。

公益財団法人日本対がん協会  
会長 垣添忠生

## 開催概要

タイトル	JAPAN CANCER SURVIVORS DAY 2023 (ジャパンキャンサー サバイバーズ デイ 2023)
テーマ	つながり支え合う
日程	2023年6月4日(日) 11:00～15:00 (開場10:30/閉場15:30)
会場	国立がん研究センター 築地キャンパス 研究棟 大会議室(大ホール)、セミナールームA・B、ホワイエ
参加費	無料
対象	がん患者・家族・医療従事者・一般 どなたでも
開催形態	ハイブリッド：会場+オンライン (YouTube)
URL	<a href="https://www.gsclub.jp/jcsd2023">https://www.gsclub.jp/jcsd2023</a> 
プログラム	開会挨拶 1. 講演1「支えられる勇気、支える心がまえ～がん患者にとっての3種類のソーシャルサポート～」 2. 講演2「地域にあったがん治療・寄り添いのありかた」 3. アドボケート活動助成の実行団体より活動報告 日本対がん協会は、がんサバイバーや家族の支援を目的にした事業計画に対し、資金を助成する「がんアドボケート活動助成」を実施しました。JCSD2023では、2022年度に助成を受けた7団体から報告がありました。 4. 講演3+トークセッション：「お互いさま」の関係を考える 1. 講演「支え“る／られる”を変えていく」 2. 講演「依存と自立、ふたつの支え」 3. トークセッション：「お互いさま」の関係を考える 閉会挨拶 5. ブース出展 6. ありがとうポスト 7. 著書販売
参加者	875名(会場389名、オンライン参加者489名)
開催レポート URL	<a href="https://www.jcancer.jp/consultation_and_support/jcsd2023_report">https://www.jcancer.jp/consultation_and_support/jcsd2023_report</a> 講演動画や写真、感謝の言葉、感想アンケート結果などを掲載 

以下の講演は開催レポートWEBサイトでアーカイブ動画をご視聴いただけます。



司会進行  
日本対がん協会 堀 均



開会挨拶  
日本対がん協会 会長 垣添 忠生

## 【講演 1】



「支えられる勇気、支える心がまえ ～ がん患者にとっての3種類のソーシャルサポート～」  
保坂サイコオンコロジー・クリニック院長の保坂隆医師が、がん患者と家族ら支える人たちの関係をどう持つべきかについて語りました。

## 【講演 2】



「地域にあったがん治療・寄り添いのありかた」  
NPO法人いきいき和歌山がんサポート理事長の谷野裕一医師が、がんになっても生き生きと暮らせるようになるために、地域の課題として、専門医の不足などによる専門性の確保、治療の選択肢と情報の提供、認定看護師や専門看護師の不足で治療やケアについて患者とともに方針を決める共有意思決定の難しさを指摘しました。

## 【アドボケート】

日本対がん協会は、がんサバイバーや家族の支援を目的にした事業計画に対し、資金を助成する「がんアドボケート活動助成」を実施しました。JCS2023では、2022年度に助成を受けた7団体から報告がありました。

## 【1～4団体】



がんサバイバーを対象に、就労支援を行う「一般社団法人がんと働く応援団」の吉田ゆりさん（写真左）、体づくりをサポートする「ゆる<sup>2</sup>トレ実行員会」の石野田神さん（写真中央）、旅行やアクティビティを企画する「ReViv（リバイブ）」の相澤美穂子さん（写真右）らが協働して取り組んだ「ゆる<sup>2</sup>トレプロジェクト」より、活動報告がありました。



がんを経験した女性のコミュニティColorful Ribbons（カラフルリボン）が取り組んだのは、「地域のがんママを支える」という事業。子育て中の乳がん患者らが気軽に相談できる地域密着型の居場所を提供しようと、西東京市で3月にプレ開催した「がんママのためのカフェ」について、代表の高倉理恵さんから活動報告と今後の展望についてお話しがありました。

## 【アドボケート】 つづき

### 【5～7団体紹介】



がん治療後の難治性、進行性の後遺症であるリンパ腺障害に悩む人たちの支援と治療環境改善の実現を目指す「リンパ浮腫ネットワークジャパン（リンネット）」代表の岩澤玉青さんは、「リンパ浮腫と就労」をテーマにしたシンポジウムの開催報告と今後の取り組みについてお話しされました。



「AYA GENERATION+group」代表、桜林芙美さんが登壇。AYA世代（15～39歳）と小児がん経験者、40歳以上の「プラス世代」が抱える課題や関心事をテーマにしたオンラインイベント「AYAまつり」を今年も開催し、130人が参加したと活動報告がありました。



「がん哲学外来メディカルカフェ シャチホコ記念」の彦田かな子さんによる活動報告。活動内容を紹介する冊子を作成し、全国各地の図書館へ配布。同様の取り組みは地元の愛知県や長野県などへ広がっており、利用者のアンケートの結果から図書館でのがん教育の必要性を実感したと語りました。

## 【講演3+トークセッション】 「『お互いさま』の関係を考える」

### 【講演1】



2012年に希少がん（GIST）を発症した谷島雄一郎さんが、「支え“る”/られる”を変えていく」と題し、自らのがん体験を交えた講演を行いました。（この動画は2024年7月末までの限定公開です）

### 【講演2】



続いて、緩和ケア医の大橋洋平医師が「依存と自立、ふたつの支え」とのテーマで講演を行いました。2018年にGISTが見つかり手術を受けた大橋医師。抗がん剤治療を続けながら仕事に復帰し、自身の体験をYouTubeで発信しています。講演では、患者本人は医療者に頼り（依存）、できることはする（自立）という二つのことができるよう、周囲の人たちが支えることが大事だと話しました。

### 【トークセッション】



トークセッションでは、日本対がん協会が無料電話相談を担当する北見知美マネージャーが進行役になり、意見交換しました。患者の相談相手について、「支える側も人それぞれ。その時の悩み、感情によって変えることも大切では」と語る谷島さん。支える側の心構えについて、大橋さんは「患者として、無理なこと、頼りたいことは頼らせてもらう。そう言える関係が築かれると生きやすくなる」と話しました。



閉会挨拶  
日本対がん協会 常務理事 石田 一郎

# ブース出展 (32団体)

## 協力団体一覧 (順不同)

一般社団法人 仕事と治療の両立支援ネット-ブリッジ  
 がんフォト\*がんストーリー  
 国立がん研究センター 希少がんセンター  
 肉腫 (サルコーマ) の会 たんぽぽ  
 JCDA治療と仕事の両立支援事業 りぼら  
 NPO法人Hope Tree  
 東京大学医学部附属病院 外見ケアグループ  
 東京大学医学部附属病院 がん相談支援センター  
 一般社団法人 キャンサーフィットネス  
 がん情報サイト「オンコロ」  
 エムスリー株式会社 Club CaNoW  
 グンゼ株式会社  
 株式会社明治  
 CRAAS (クラス)  
 認定NPO法人 マギーズ東京  
 資生堂ジャパン株式会社  
 一般社団法人がんと働く応援団  
 リンパ浮腫ネットワークジャパン (リンネット)  
 NPO法人 キャンサーネットジャパン  
 NPO法人がんと暮らしを考える会  
 一般社団法人 キャンサーペアレンツ  
 NPO法人 キープ・ママ・スマイリング  
 NPO法人 くまがやピンクリボンの会  
 食道がん患者会「食がんリングス」  
 NPO法人 GISTERS  
 一般社団法人日本希少がん患者会ネットワーク  
 頭頸部がん患者と家族の会 Nicotto(ニコット)  
 認定NPO法人がんサポートコミュニティ  
 NPO法人 こどものちから  
 AYA GENERATION+group  
 認定NPO法人 オレンジティ  
 公益財団法人日本対がん協会



## ブース出展団体からの感想 (一部抜粋)

各ブースご挨拶に伺ったり、逆にいらしていただきそれぞれの活動を話すことができました。

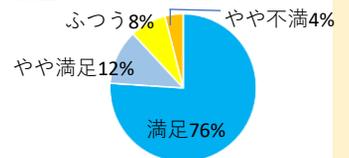
参加したスタッフからは、自分ががんになって不安なことがあっても誰かが支えてくれるんだと怖くなくなりました。との声がありました。素敵なイベントに参加させていただき有難うございました！

久しぶりに直接お会いできた方との交流はとても嬉しかったです。また、参加者の方々からプログラムに興味を持っていただき、質問をいただいたり、広報の場としてもとても有効に交流ができました。ありがとうございました。

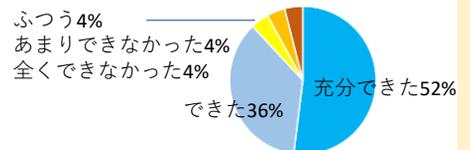
シールラリーを開催して各ブースに立ち寄る施策をしていただいたのはとても良かったです。

一団体だけでは、なかなかこうしたリアルイベントの実現はできないため、たくさんのご縁・つながりが生まれる機会をいただけましたこと、深く感謝申し上げます。

■ブースレイアウト (設備、配置、スペースなど) はいかがでしたか。

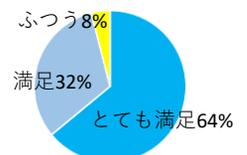


■参加者や出展者同士の交流はいかがでしたか。



■全体的な満足度

96%が満足と回答した。



# ポスター・フライヤー設置（情報提供コーナー）

## 「情報提供（ポスター・チラシ設置）」

協力団体一覧（順不同）

金原出版  
武田薬品工業株式会社  
一般社団法人CSRプロジェクト  
若年性がん患者団体 STAND UP!!  
がんを経験した女性のコミュニティ Colorful Ribbons  
リボンズケアumiと仲間たち  
Tao Caps  
猫舌堂  
認定NPO法人乳房健康研究会  
若年性乳がんサポートコミュニティPink Ring



## ありがとうポスト（感謝の気持ちのメッセージ集）

JCSD2023では「がん治療を支えてくれたあの人に伝えたかった感謝の気持ち、伝えそびれたありがとうの一言、今だから素直になれる思いを、会場やWEBのポストに投函し、がん治療中の仲間たちとシェアしませんか？」という「ありがとうポスト」を企画実施しました。

感謝のメッセージはこちら。

<https://www.gsclub.jp/tips/20883>



### メッセージ（一部抜粋）

## ありがとう

感謝の気持ち、ちゃんと伝えてないなー。ごめんね。口に出すと泣けてしまうから言わないよ。働きながらの抗がん剤治療で、毎日会社まで車で送ってくれたり…。感謝、感謝です。  
(60代・がん経験者より)

がんを克服して大きくなってくれてありがとう。一生懸命な姿に私の方が力をいつももらっていました。(60代・がん経験者の家族より)

手術の前、気持ちが落ち込んで食欲がないし何も手につかないとき、片道1時間かけてごはんを作りに来てくれてありがとう。なのにあんまり食べれなくてごめんね。(40代・がん経験者より)

入院手術の時、遠方からきてくれてありがとう。家族のいない私にとって、おばさんの存在は大きいです。ありがとう。  
(40代・がん経験者より)

手術から退院するまで、毎日来てくれたよね！あんなに忙しいのに時間を作ってくれて、楽しくたくさん話してくれて、本当にありがとう。  
(50代・がん経験者より)

愛猫も10歳。私も後どの位生きられるか…。いつもいやしてくれてありがとう。病気がないで長生きしようね。(60代・がん経験者より)

## ■ 収入

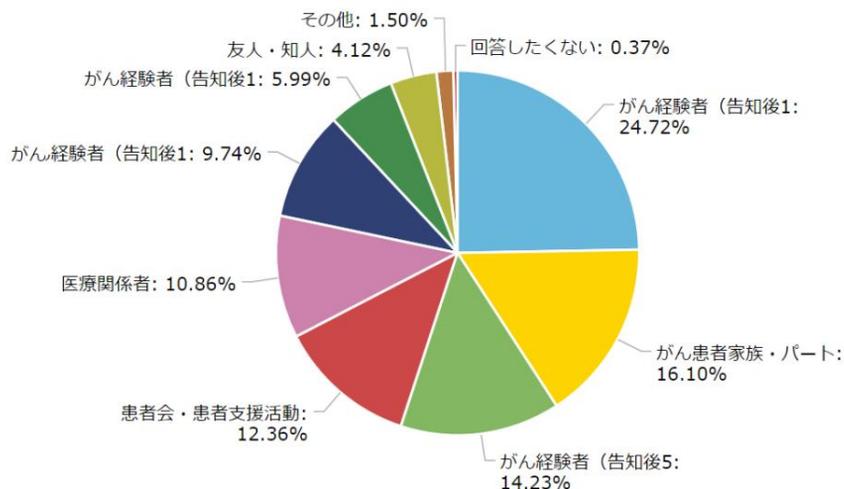
項目	金額 (円)	説明
参加費	0	無料
ブース出展料	440,000	4社
チラシ・リーフレット設置	66,000	2社
寄付	33,900	当日の寄付含む
自己資金	3,194,751	
収入 合計	3,734,651	

## ■ 支出

項目	金額 (円)	説明
会場費	0	国立がん研究センター 築地キャンパス 研究棟
業務委託費	3,455,937	WEBサイト、フライヤー、カメラマン等
講師費用	184,742	講師の謝礼、宿泊、交通費
通信費	51,475	招聘状、フライヤー等発送費
保険料	3,632	ボランティア保険
雑費	38,865	小判手持ち袋、ネームストラップ、貼れパネ等
支出 合計	3,734,651	

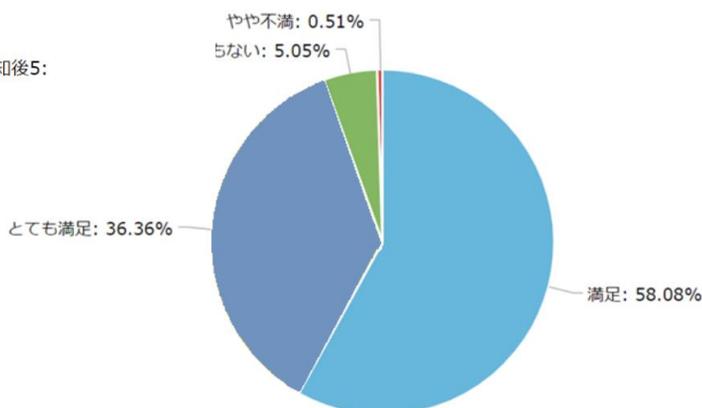
## 参加者からの感想

### ■ あなたの立場を教えてください。



会場、オンライン参加の合計198名から回答を得た。  
がん経験者が55%を占め、その94%が満足と回答した。

### ■ イベント全体の満足度はいかがでしたか。



感想アンケート詳細はこちら



[https://www.jcancer.jp/wp-content/uploads/jcsd2023\\_survey.pdf](https://www.jcancer.jp/wp-content/uploads/jcsd2023_survey.pdf)

# 参加者からの感想

## ■会場&オンライン参加者（一部抜粋）

久しぶりの対面での参加は、たくさんの収穫があり、本当に良かったです。新しい団体様とも知り合うこともでき、とても力になります。

リアル開催で人と会うことの大切さが分かった。

すべてのブースで活気があり、すべての人達が生き生きとしていた。ここにいる人たちがホントにがん患者なのか？と疑うほど輝いていて元気をもらった。

このような会がある事を知れて良かった。

講演もすばしかったが、熱意を持って活動する団体の存在を知ることは大変有意義でした。

先生方のメッセージ、サバイバー仲間の笑顔と明るさをリアルに感じられたことがとても嬉しかったです。

体調不良なので、オンラインで参加できたのがありがたかった。

患者の家族として、どう接すべきか日々悩んでいます。谷島さん、大橋先生のお話がとても心に響きました。

知りたい知識をオンラインでも得ることができた。地方にいると情報格差を感じます。活動している団体の数も限られます。身近にないのでわからないことも多いです。ですので今回オンラインで参加できた意義は大きいです。

患者さんがどうしたいか、どうして欲しいか、周りの者がどう考え、支えることができるかを学べたから。

自立と自律、支える／られるをわかりやすくお話していただけて、よかったです。自律性を奪うとは考えてもいなかったので、ドキッとしました。沈黙はダメですよ。

## インフォメーション



JAPAN CANCER SURVIVORS DAY

June 2, 2024

7th

2024年6月2日（日）

国立がん研究センター 築地キャンパス 研究棟にて開催決定！

来年もお会いしましょう！

開催レポートはこちら



[https://www.jcancer.jp/consultation\\_and\\_support/jcsd2023\\_report](https://www.jcancer.jp/consultation_and_support/jcsd2023_report)



最後にJCS2023開催にあたりご登壇、ご講演ご出展、ポスターやフライヤーの設置など、イベントにご賛同、ご協力いただいた皆さま、運営に携わっていただいたボランティアの皆さまへ心より御礼申し上げます。

公益財団法人日本対がん協会 スタッフ一同

## 主催



公益財団法人

日本対がん協会

〒104-0045

東京都中央区築地5-3-3 築地浜離宮ビル7階

Tel : 03-3541-4771 / Fax : 03-3541-4783



<https://www.jcancer.jp/>